



#### DATA

名称 旧岩崎邸庭園  
所在地 東京都台東区池之端一丁目  
完成 明治29年  
設計者 ジョサイア・コンドル



東京のレトロ建築を歩く 第2回

## 旧岩崎家住宅

**旧** 岩崎家住宅は明治29年（1896年）に三菱財閥の創始者、岩崎彌太郎の長男久彌の本邸として建てられた。創建当時は、現在の3倍の敷地に20棟もの建物が並んでいたという。

現存するのは洋館・撞球室（ビリヤード室）・和館の3棟で、この3棟ならびに宅地が「旧岩崎家住宅」として国の重要文化財に指定されている。木造2階建・地下室付きの洋館と別棟の撞球室は、鹿鳴館の設計で知られるジョサイア・コンドルが手がけたもの。

コンドルは、明治政府から西洋式の建物の設計と、日本人建築家の育成のために招かれた英国人建築家だ。工部大学校造家学科（現・東京大学工学部建築学科）の教授に就任し、東京駅の設計で知られる辰野金吾や、迎賓館赤坂離宮を設計した片山東熊などを育てた。明治中期からは三菱の建築顧問を務め、岩崎一族の邸宅を数多く設計した。

洋館は、岩崎一族の集まりや賓客を歓迎するための施設として使用された。内外装とも全体のスタイルや装飾は本格的なヨーロッパ式邸宅で、来客の宿泊用の部屋や設備も整えられていた。

玄関ホールには幾何学模様のステンドグラスやイスラム風タイルが使われているほか、各部屋には意匠を凝らした暖炉や照明が備えられている。

天井や壁紙も部屋ごとに装飾が異なる。





繊細な装飾が施された階段



ミントタイルが敷かれた  
1階ベランダ



復元された金唐革紙が貼られた室内

り、それぞれ違った印象を受ける。  
洋館1階にある婦人客室は、シルクの  
刺繍で美しく彩られている。

洋館2階の客室の一部には、創建当  
時、金唐革紙（きんからかわし。和紙に  
金属箔を合わせ、版木で凹凸文様を押し  
刻する希少な高級紙）の壁紙が貼られてい  
たが経年劣化していた。平成15年（20  
03年）の修復に際して、現代の技術で  
この金唐革紙が復元され、往時の室内装  
飾の豪勢さを現代にのみがえらせた。

洋館の南側には、1階、2階ともに列

柱の並ぶ大きなベランダが設けられ、そ  
の列柱には古代ギリシャ・ローマ風の建  
築様式が取り入れられている。

別棟の撞球室は、当時の日本では珍し  
いスイスの山小屋風の木造建築。洋館と  
は地下道でつながり、雨の日でも濡れず  
に行き来できるようになっていた。

旧岩崎家住宅は、明治期の上流階級の  
邸宅を知るうえで、貴重な遺構である。  
多様な建築要素を盛り込んだ趣向と相ま  
つて、世界の住宅史においても希有な建  
築とされている。



古代ギリシャ・ローマ風の列柱が並ぶ  
南面ベランダ



撞球室（ビリヤード室）。  
地下道で洋館とつながっている